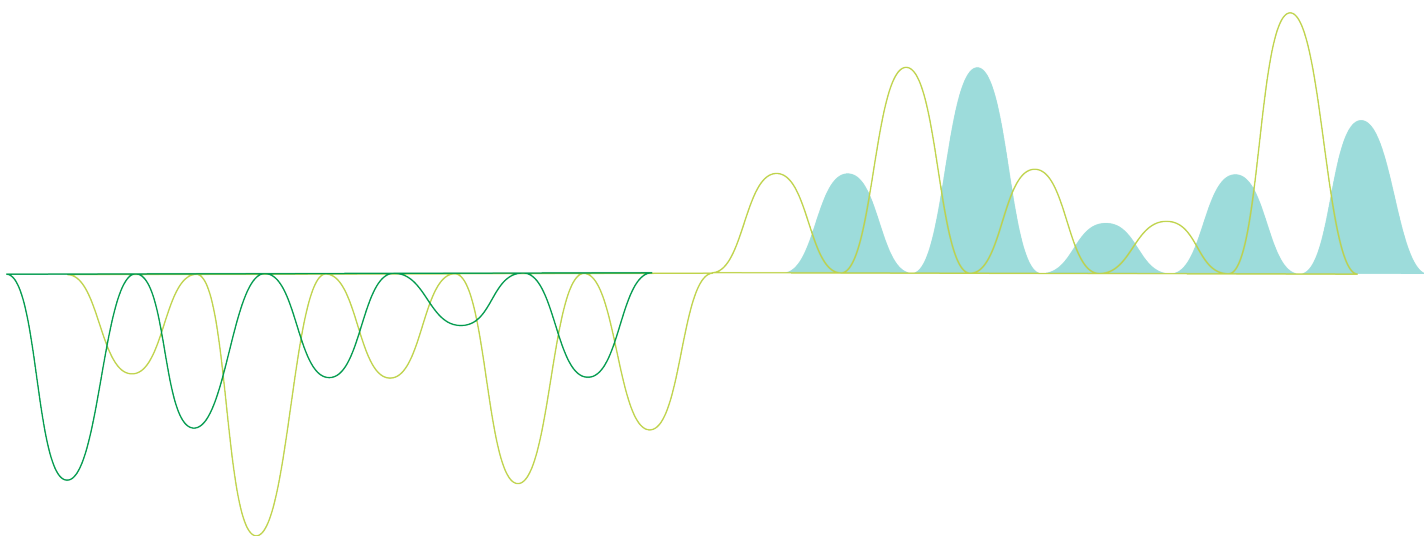


チュートリアル - アプリの構築

Qlik Sense®

May 2022

Copyright © 1993-2022 QlikTech International AB. All rights reserved.



1 チュートリアルへようこそ	5
1.1 本チュートリアルについて	5
1.2 前提条件	5
1.3 アプリの構築	5
1.4 追加の資料とリソース	6
2 準備	7
2.1 Qlik Sense を開く	7
Qlik Sense Enterprise を開く	7
Qlik Sense Desktop を開く	7
2.2 チュートリアル ソース ファイルの保存	7
Qlik Sense Enterprise でのチュートリアル ソース ファイルの保存	7
Qlik Sense Desktop でのチュートリアル ソース ファイルの保存	7
3 アプリの新規作成	8
3.1 Qlik Sense Enterprise または Qlik Sense Desktop でのアプリの新規作成	8
4 データの追加	9
4.1 Qlik Sense Enterprise の最初のデータ ファイルからのデータのロード	9
Qlik Sense Desktop の最初のデータ ファイルからのデータのロード	10
4.2 Sales rep ファイルの追加	12
4.3 データの関連付け	13
4.4 データの追加と関連付け	13
4.5 データのロード	15
4.6 地域の設定	15
4.7 データのロード	16
データ モデルの表示	16
5 アプリの設計	18
5.1 シートの作成	18
6 最初のシート: Dashboard	22
6.1 ビジュアライゼーションの作成	22
6.2 フィルター パネルの追加	22
6.3 円グラフの追加	23
6.4 棒グラフの追加	24
6.5 コンボ チャートの追加	25
6.6 KPI の追加	25
6.7 ゲージの追加	26
6.8 折れ線グラフの追加	27
7 2 番目のシート: Product Details	29
7.1 フィルター パネルの追加	29
7.2 棒グラフの追加	29
7.3 ツリーマップ チャートの追加	30
8 3 番目のシート: Customer Details	31
8.1 フィルター パネルの追加	31
8.2 散布図の追加	31
8.3 Customer KPIs テーブルの追加	32
数値書式の調整	32

8.4 Customer KPIs テーブルのピボット テーブルへの変換	32
テーブルの変換	33
9 4 番目のシート: 顧客の場所	35
9.1 フィルター パネルの追加	35
9.2 マップの追加	35
10 データストーリーテリング	37
10.1 スナップショットの取得	37
10.2 シンプルなストーリーの作成	38
スライド1	38
スライド2~4	39
10.3 お疲れ様でした!	40

1 チュートリアルへようこそ!

このチュートリアルでは、**Qlik Sense** でアプリを作成する方法をご紹介します。**Qlik Sense** は直感的で使いやすいインターフェースで、データを抽出したり、提示したりするソフトウェア製品です。**Qlik Sense** では、選択を行うことによりデータを抽出します。選択を行うと、アプリは直ちにデータをフィルターし、関連するアイテムをすべて提示します。選択の詳細については、help.qlik.com にある **チュートリアル - 基礎から開始** を参照してください。このチュートリアルでは、アプリの構築に焦点を当てています。

1.1 本チュートリアルについて

本チュートリアルでは、ゼロからアプリを作成する方法を説明します。空のシートから魅力的なアプリを作りましょう。

本チュートリアルは、**Qlik Sense** の基本を熟知したユーザーを対象としています。また、選択方法や選択結果の解釈方法についての理解も必要です。

このチュートリアルには、次のようなトピックが含まれます。

- データのロード
- アプリの設計
- ビジュアライゼーションの作成
- ビジュアライゼーション、軸、メジャーの再利用
- データストーリーテリング

本チュートリアルを終えると、**Qlik Sense** アプリ作成に関する各種手順への理解が深まります。また、アプリ設計に必要な考慮事項も学べます。

使用している **Qlik Sense** プラットフォームによっては、このチュートリアルのスクリーンショットは、**Qlik Sense** に表示されているものと少し異なる場合があります。

1.2 前提条件

Qlik Sense の使用を開始する前に、次のいずれかを行う必要があります。

- **Qlik Sense Enterprise** にアクセスします。
- コンピューターに **Qlik Sense Desktop** をインストールします。

Qlik Sense Desktop は www.qlik.com からダウンロードできます。インストールについて不明な点がある場合は、help.qlik.com で手順を参照できます。

1.3 アプリの構築

アプリの構築では、アプリの設計と利用に必要な基本的手順について述べます。

1. まず、データファイルを準備します。
データファイルを **Qlik Sense Enterprise** または **Qlik Sense Desktop** で利用可能な状態にします。
2. 空のアプリを作成します。

アプリに名前を付けます。

3. データをロードします。
Qlik Sense は、データを分析するよう設計されているため、データがなければアプリは役に立ちません。
4. シートを1枚または複数作成して、ビジュアライゼーションを追加します。
シートはビジュアライゼーションを作成する場所で、アプリの準備が整えばここでデータを分析します。

これが基本的な手順です。さらに高度なアプリを作成する場合、スクリプトの作成にはデータのロード以上の操作が必要になります。

1.4 追加の資料とリソース

- **Qlik** では、さらなる詳細情報を提供する、広範なリソースをご用意しています。
- **Qlik Sense** [オンラインヘルプ](#) を利用できます。
- 無料のオンラインコースを含むトレーニングは、**Qlik Continuous Classroom** で利用できます。
- ディスカッションフォーラム、ブログなどは、**Qlik Community** にあります。

2 準備

2.1 Qlik Sense を開く

使用している Qlik Sense のバージョンに応じて、次のいずれかを実行します。

Qlik Sense Enterprise を開く

Qlik Sense Enterprise を使用している場合は、ブラウザに **`https://<サーバー名>/hub`** といった Web アドレスを入力して、Qlik Sense Enterprise を起動します。入力するアドレスは、組織内で Qlik Sense が実装された方法によって異なります。

Qlik Sense が起動するとハブが表示され、[作業] から新しいアプリを作成できるようになります。

Qlik Sense Desktop を開く

Qlik Sense Desktop のインストールが完了したら、デスクトップ上のショートカット、または [スタート] メニューの左パネル、または [すべてのプログラム] にある Qlik Sense フォルダーから起動します。

Qlik Sense Desktop を起動すると、ハブが表示されます。システム メッセージは閉じて構いません。

ハブはアプリのストレージです。Qlik Sense Desktop をインストールしたばかりでまだアプリを構築していない場合は、アプリ構築を開始しましょう。

2.2 チュートリアル ソース ファイルの保存

Tutorial source フォルダーは zip ファイルに含まれており、中にはデータファイルが保管されています。そのため、アプリの構築を開始する前にこのデータファイルにアクセスできることを確認しておく必要があります。使用している Qlik Sense のバージョンに応じて、次のいずれかを実行します。

Qlik Sense Enterprise でのチュートリアル ソース ファイルの保存

Qlik Sense Enterprise を使用している場合は、お使いのコンピューターに **Tutorial source** フォルダーを保存してください。ファイルの具体的な場所は必要ありません。

Qlik Sense Desktop でのチュートリアル ソース ファイルの保存

Qlik Sense Desktop を使用している場合は、**Tutorial source** フォルダーを **Sense** フォルダー内に保存する必要があります。

次の手順を実行します。

1. **Documents** フォルダーを開きます。(このフォルダーは **My Documents** と表示されている場合もあります。) その下のパスは **Qlik\Sense** です。
2. **Tutorial source** フォルダーを **Sense** フォルダーに保存します。

3 アプリの新規作成

アプリを完成させるには、まず最初のステップとして空のアプリを作成します。

3.1 Qlik Sense Enterprise または Qlik Sense Desktop でのアプリの新規作成

次の手順を実行します。

1. ハブで **[アプリの新規作成]** をクリックします。
[アプリの新規作成] ダイアログが開きます。
2. 「*Tutorial*」というアプリ名を入力します。
3. **[追加]** をクリックします。
作成の承認を求めるメッセージが表示されます。
4. **[アプリを開く]** をクリックします。
アプリが開きます。データの追加を開始するよう促すメッセージが表示されます。

4 データの追加

アプリを完成させるには、2 番目のステップとしてデータをロードします。

以下のファイルをロードします。

- *Sales.xlsx*
- *Item master.xlsx*
- *Cities.xlsx*
- *Sales rep.csv*
- *Customers.xlsx*

使用している Qlik Sense のバージョンに応じて、次のいずれかを実行します。

4.1 Qlik Sense Enterprise の最初のデータファイルからのデータのロード

データを追加するときには、最も重要なファイル (ここでは *Sales.xlsx*) から始めることが推奨されます。

Qlik Sense Enterprise を使用する場合は、*Tutorial source* フォルダーからデータファイルを追加します。以前の手順に従っている場合、このフォルダーはコンピューター上に存在しています。

次の手順を実行します。

1. [ファイルおよびその他のソースからデータを追加] をクリックします。
データソース選択ダイアログが開きます。
2. [添付ファイル] をクリックし、次のいずれかの方法でファイルをアップロードします。
 - *Sales.xlsx* ファイルをダイアログにドラッグ アンド ドロップします。
 - ダイアログの下部にある指定エリアをクリックし、*Sales.xlsx* ファイルを特定して [開く] をクリックします。

いずれの場合も進捗状況ウィンドウが表示され、次にデータ選択のためのウィンドウが開きます。ここでは、データファイル内のシートである *Sales* が既に選択されていることを確認できます。[埋め込まれた項目名] も選択されています。これは正しい状態です。

The screenshot shows the Qlik Sense Desktop interface. At the top, the file 'Sales.xlsx' is loaded. The 'Tables' panel on the left shows a table named 'Sales' with 15 rows. The main table displays the following columns: %KEY, Cost, Customer Num..., Date, GrossS..., Invoice D..., and Invoice Num... The data includes various sales entries with their respective costs, customer numbers, dates, gross sales, and invoice details.

3. [データの追加] をクリックします。

データマネージャーの関連付け表示が開く前に進捗状況ウィンドウが表示されます。この表示では、データがバブルで図示されます。テーブル **Sales** には * が付いて、新規作成または更新されたテーブルであることを示します。

データをロードする前に、データファイルをさらに追加します。**Sales rep** ファイルの追加 (page 12) で続行します。

Qlik Sense Desktop の最初のデータファイルからのデータのロード

データを追加するときには、最も重要なファイル (ここでは **Sales.xlsx**) から始めることが推奨されます。

Qlik Sense Desktop を使用している場合、データファイルを含む **Tutorial source** フォルダーへのデータ接続を確保する必要があります。**Tutorial source** フォルダーへのデータ接続は、最初のデータファイル **Sales.xlsx** を **Tutorial source** フォルダーからロードする際に作成されます。

次の手順を実行します。

1. [ファイルおよびその他のソースからデータを追加] をクリックします。
データソース選択ダイアログが開きます。ここから、ロードするすべてのデータファイルが保存されている *Tutorial source* フォルダーに移動します。
2. [マイ コンピューター] をクリックします。
3. 先ほどの提案場所に従って *Tutorial source* フォルダーを保存している場合は、[ドキュメント] > [Qlik] > [Sense] の順に選択して *Tutorial source* フォルダーを参照します。*Tutorial source* フォルダーを別の場所に保存している場合は、その保存場所まで移動してからフォルダーを開く必要があります。

データソースが選択されないファイル選択ダイアログと、フォルダー内のすべてのファイルの種類が表示されます

次の手順を実行します。

1. ファイル選択ダイアログで、*Sales.xlsx* ファイルを選択します。
進捗状況ウィンドウが表示され、次にデータ選択のためのウィンドウが開きます。ここでは、データファイル内のシートである *Sales* が既に選択されていることを確認できます。[埋め込まれた項目名] も選択されています。これは正しい状態です。

The screenshot shows the Qlik Sense data selection interface for the file *Sales.xlsx*. On the left, under 'Tables', the 'Sales' table is selected. The 'File format' is set to 'Excel (XLSX)'. Under 'Field names', 'Embedded field names' is selected. The 'Header size' is set to 0. The main table displays columns: %KEY, Cost, Customer Num..., Date, GrossS..., Invoice D..., and Invoice Num... with data rows starting from 3428.

%KEY	Cost	Customer Num...	Date	GrossS...	Invoice D...	Invoice Num...
3428	-513.15	10012226	1/12/2012	-573.3835	1/12/2012	318960
3429	-105.93	10012226	1/12/2012	-204.6638	1/12/2012	318960
3430	-88.07	10012226	1/12/2012	-165.8016	1/12/2012	318960
3431	-43.12	10012226	1/12/2012	-118.3703	1/12/2012	318960
3432	-37.98	10012226	1/12/2012	-102.3319	1/12/2012	318960
3433	-49.37	10012226	1/12/2012	-85.5766	1/12/2012	318960
3434	-45.81	10012226	1/12/2012	-68.4399	1/12/2012	318960
3435	-12.56	10012226	1/12/2012	-67.3822	1/12/2012	318960
3436	-13.42	10012226	1/12/2012	-16.1534	1/12/2012	318960
3451	0.38	10002489	1/12/2012	1.438	1/12/2012	319167
3452	0.46	10008381	1/12/2012	1.7848	1/12/2012	319174
3453	1.14	10000486	1/12/2012	3.3824	1/12/2012	319069
3454	2.13	10000486	1/12/2012	4.5453	1/12/2012	319069
3455	7.76	10021472	1/12/2012	5.6549	1/12/2012	319142
3456	3.51	10000453	1/12/2012	5.9111	1/12/2012	319153
3457	4.87	10021472	1/12/2012	10.1223	1/12/2012	319142
3458	0.61	10021472	1/12/2012	11.4246	1/12/2012	319142
3459	3.43	10008381	1/12/2012	12.0125	1/12/2012	319174
3460	3.19	10026532	1/12/2012	12.197	1/12/2012	319119
3461	1.84	10008381	1/12/2012	19.3428	1/12/2012	319174
3462	8.84	10015793	1/12/2012	20.4994	1/12/2012	319164
3463	6.87	10000486	1/12/2012	22.9404	1/12/2012	319069
3464	22.77	10021472	1/12/2012	24.448	1/12/2012	319142
3465	7.72	10000486	1/12/2012	26.4723	1/12/2012	319069
3466	13.28	10008381	1/12/2012	27.9472	1/12/2012	319174
3467	15.07	10021472	1/12/2012	28.246	1/12/2012	319142
3468	13.53	10007457	1/12/2012	28.398	1/12/2012	319193
3469	11.51	10023524	1/12/2012	29.0892	1/12/2012	319195
3470	19.96	10013332	1/12/2012	32.2939	1/12/2012	319205

2. [データの追加] をクリックします。

データマネージャーの関連付け表示が開く前に進捗状況ウィンドウが表示されます。この表示では、データがバブルで図示されます。テーブル **Sales** には * が付いて、新規作成または更新されたテーブルであることを示します。

データをロードする前に、データファイルをさらに追加します。**Sales rep** ファイルの追加 (page 12) で続行します。

4.2 Sales rep ファイルの追加

次に追加するデータファイルは **Sales rep.csv** であり、少し異なるデータ選択インターフェースが使用されます。

[関連付け] ビューで、以下を実行します。

1. **Sales rep.csv** ファイルをアプリ上にドロップして追加します。

データソース選択ダイアログが開きます。

[項目名] で [埋め込まれた項目名] が選択されていることを確認します。このオプションが選択されていると、データをロードする際にテーブルの項目名が含まれます。

[区切り記号] 項目には、正しい設定である [セミコロン] が設定されています。Qlik Sense は区切り記号を自動的に認識し、デフォルトで正しい区切り記号を含むデータを表示します。

File format: Delimited

Field names: Embedded field names

Delimiter: Semicolon

Quoting: MSQ

Header size: - 0 +

Character set: 28599 (ISO 8859-9 Latin 5)

Ignore End-Of-File character? ☐

☒ Select all fields

<input checked="" type="checkbox"/> Manager	<input checked="" type="checkbox"/> Manager Num...	<input checked="" type="checkbox"/> Path	<input checked="" type="checkbox"/> Sales Rep Na...	<input checked="" type="checkbox"/> Sales Rep Na...	<input checked="" type="checkbox"/> Sales Rep Na...	<input checked="" type="checkbox"/> Sales
Amanda Honda	104	Amanda Honda-Amalia Craig	Amalia Craig	Amanda Honda	Amalia Craig	
Amanda Honda	104	Amanda Honda-Cart Lynch	Cart Lynch	Amanda Honda	Cart Lynch	
Amanda Honda	104	Amanda Honda-Molly McKenzie	Molly McKenzie	Amanda Honda	Molly McKenzie	
Amanda Honda	104	Amanda Honda-Sheila Hein	Sheila Hein	Amanda Honda	Sheila Hein	
Brenda Gibson	109	Brenda Gibson-Dennis Johnson	Dennis Johnson	Brenda Gibson	Dennis Johnson	
Brenda Gibson	109	Brenda Gibson-Ken Roberts	Ken Roberts	Brenda Gibson	Ken Roberts	
Brenda Gibson	109	Brenda Gibson-Robert Kim	Robert Kim	Brenda Gibson	Robert Kim	
Brenda Gibson	109	Brenda Gibson-William Fisher	William Fisher	Brenda Gibson	William Fisher	
Carolyn Halmon	111	Stewart Wind-Carolyn Halmon-Cary	Cary Frank	Stewart Wind	Carolyn Halmon	Cary Frank
Carolyn Halmon	111	Stewart Wind-Carolyn Halmon-Edw	Edward Smith	Stewart Wind	Carolyn Halmon	Edward Smith
Carolyn Halmon	111	Stewart Wind-Carolyn Halmon-Lee C	Lee Chin	Stewart Wind	Carolyn Halmon	Lee Chin
Carolyn Halmon	111	Stewart Wind-Carolyn Halmon-Ron	Ronald Milam	Stewart Wind	Carolyn Halmon	Ronald Milam
David Laychak	118	John Greg-David Laychak-Amelia Fie	Amelia Fields	John Greg	David Laychak	Amelia Fields
David Laychak	118	John Greg-David Laychak-Deborah H	Deborah Halmon	John Greg	David Laychak	Deborah Halmon
David Laychak	118	John Greg-David Laychak-Judy Row	Judy Rowlett	John Greg	David Laychak	Judy Rowlett
Dennis Johnson	121	Brenda Gibson-Dennis Johnson-Ang	Angelen Carter	Brenda Gibson	Dennis Johnson	Angelen Carter
Dennis Johnson	121	Brenda Gibson-Dennis Johnson-Der	Dennis Fisher	Brenda Gibson	Dennis Johnson	Dennis Fisher
Dennis Johnson	121	Brenda Gibson-Dennis Johnson-Jud	Judy Thurman	Brenda Gibson	Dennis Johnson	Judy Thurman
John Davis	132	Stewart Wind-John Davis-Bima Male	Bima Malek	Stewart Wind	John Davis	Bima Malek
John Davis	132	Stewart Wind-John Davis-Karen Clir	Karen Clinton	Stewart Wind	John Davis	Karen Clinton
John Davis	132	Stewart Wind-John Davis-TAGnolog	TAGnology	Stewart Wind	John Davis	TAGnology
John Greg	134	John Greg-David Laychak	David Laychak	John Greg	David Laychak	
John Greg	134	John Greg-Kathy Clinton	Kathy Clinton	John Greg	Kathy Clinton	
John Greg	134	John Greg-Sandra Barone	Sandra Barone	John Greg	Sandra Barone	
John Greg	134	John Greg-Viginia Mountain	Viginia Mountain	John Greg	Viginia Mountain	
Kathy Clinton	144	John Greg-Kathy Clinton-Cheryle Sir	Cheryle Sincok	John Greg	Kathy Clinton	Cheryle Sincok
Kathy Clinton	144	John Greg-Kathy Clinton-Janice Sco	Janice Scott	John Greg	Kathy Clinton	Janice Scott

... Add data

2. [データの追加] をクリックします。

データマネージャーが開く前に進捗状況ウィンドウが表示されます。テーブル **Sales rep** が追加され、[追加を保留中] のマークが付けられます。次の手順では、データを関連付けます。

4.3 データの関連付け

次に、テーブル **Sales** と **Sales rep** 内の項目間の関連付けを作成します。

次の手順を実行します。

1. データマネージャーの概要で [関連付け] をクリックします。
データマネージャーの [関連付け] ビューでは、データがバブルで図示されます。各バブルはデータテーブルを表しており、バブルのサイズはテーブル内のデータの量を表しています。* でマークされたバブルは、新規または更新済みのテーブルを示します。
2. **Sales rep** バブルを **Sales** バブルにドラッグします。
これで、Qlik Sense において、**Sales** テーブルに対して強推奨されている関連付けが検出され、そのバブルに緑色のマークが付けられます。
3. **Sales rep** バブルを **Sales** バブルにドロップします。
これで、バブル間のリンクが作成され、推奨されている項目を使用して、テーブルが関連付けられます。
4. **Sales rep** バブルと **Sales** バブル間のリンクをクリックします。
画面の下部にある関連付けパネルの関連付け項目内に、データがプレビューされます。
5. 関連付けパネルの **Sales rep ID-Sales Rep Number** 関連付けをクリックし、「**Sales Rep Number**」という名前に変更します。
これで、関連付けの名前が **Sales Rep Number** になります。

最初の 2 つのテーブルの関連付けが完了しました。次の手順では、データファイルをさらに追加します。

4.4 データの追加と関連付け

データをロードしてアプリの構築を開始する前に、最後の 3 つのデータファイルを追加します。

[関連付け] ビューで、以下を実行します。

1. 次のデータファイルをアプリ上にドロップして追加します。
 - **Cities.xlsx**
 - **Customers.xlsx**
 - **Item master.xlsx**



[項目名] で [埋め込まれた項目名] が選択されていることを確認します。このオプションが選択されていると、データをロードする際にテーブルの項目名が含まれます。


この時点で 5 つのデータファイルが表示されているはずです。

テーブル **Sales** と **Sales rep** は、既に関連付けられています。Qlik Sense は、推奨されている関連付けを特定するのに役に立ちます。これにより、該当する関連付けを探索できるようになります。

2. バブル **Customer** をクリックして押したままにします。
バブル **Sales** と **Cities** には、緑色のマークが付けられます。これは、Qlik Sense によって、これら2つのテーブルを **Customers** に関連付けるように強く提案されているためです。
3. バブル **Cities** をクリックして押したままにします。
バブル **Customer** に、緑色のマークが付けられます。バブル **Sales** にはオレンジ色のマークが付けられます。これは中程度の推奨事項を示します。
4. バブル **Item master** をクリックして押したままにします。
バブル **Sales** に、緑色のマークが付けられます。

すべてのテーブル間で推奨されている関連付けが特定され、Qlik Sense においてユーザーの関連付けが作成されます。

次の手順を実行します。

-  をクリックします。
Qlik Sense Desktop を使用している場合は、[保存] をクリックします。
これで、テーブルが Qlik Sense の推奨事項に応じて関連付けられます。



すべてのテーブルが関連付けられたのでデータをロードします。

4.5 データのロード

次の手順を実行します。

1. **[データのロード]** をクリックします。
データがロードされている間、進捗状況 ウィンドウが表示されます。データのロードが完了したら、次に進むことができます。
2. **[閉じる]** をクリックします。

次に、地域の設定を調整します。

4.6 地域の設定


このチュートリアル用に、時間と日付の形式を準備するために、地域の設定を変更する必要があります。

データ型変換変数はシステムで定義されます。つまり、新しいアプリが作成される際に、オペレーティング システムが現在の地域設定に従って自動的に生成されます。

Qlik Sense Desktop では、地域設定はコンピューターのオペレーティング システムの設定に従います。Qlik Sense Enterprise では、Qlik Sense がインストールされているサーバーのオペレーティング システムに従います。Qlik Cloud では、使用しているブラウザーによって異なります。

このチュートリアル用に提供されているチュートリアル ファイルを使用可能にするには、アプリで時刻と日付の形式を定義する必要があります。

次の手順を実行します。

1.  をクリックし、**[データ ロード エディター]** を選択します。
2. 左側のパネルで **[Main]** をクリックして、既存の地域の設定に移動します。
3. 既存の地域の設定 (すべて **SET** で始まります) を削除し、次の設定をコピーしてデータ ロード エディターの一番上に貼り付けます。

```
SET ThousandSep=',';  
SET DecimalSep='.';  
SET MoneyThousandSep=',';  
SET MoneyDecimalSep='.';  
SET MoneyFormat='$#,##0.00;($#,##0.00)';  
SET TimeFormat='h:mm:ss TT';  
SET DateFormat='M/D/YYYY';  
SET TimestampFormat='M/D/YYYY h:mm:ss[.fff] TT';  
SET FirstWeekDay=6;  
SET BrokenWeeks=1;  
SET ReferenceDay=0;
```

```

SET FirstMonthOfYear=1;
SET CollationLocale='en-US';
SET CreateSearchIndexOnReload=1;
SET MonthNames='Jan;Feb;Mar;Apr;May;Jun;Jul;Aug;Sep;Oct;Nov;Dec';
SET
LongMonthNames='January;February;March;April;May;June;July;August;September;October;November;December';
SET DayNames='Mon;Tue;Wed;Thu;Fri;Sat;Sun';
SET LongDayNames='Monday;Tuesday;Wednesday;Thursday;Friday;Saturday;Sunday';

```

スクリプトの先頭に 18 個の **SET** ステートメントが表示されているはずです。

```

1 SET ThousandSep=',';
2 SET DecimalSep='.';
3 SET MoneyThousandSep=',';
4 SET MoneyDecimalSep='.';
5 SET MoneyFormat='$#,##0.00;-$$,##0.00';
6 SET TimeFormat='h:mm:ss TT';
7 SET DateFormat='M/D/YYYY';
8 SET TimestampFormat='M/D/YYYY h:mm:ss[.fff] TT';
9 SET FirstWeekDay=6;
10 SET BrokenWeeks=1;
11 SET ReferenceDay=0;
12 SET FirstMonthOfYear=1;
13 SET CollationLocale='en-US';
14 SET CreateSearchIndexOnReload=1;
15 SET MonthNames='Jan;Feb;Mar;Apr;May;Jun;Jul;Aug;Sep;Oct;Nov;Dec';
16 SET LongMonthNames='January;February;March;April;May;June;July;August;September;October;November;December';
17 SET DayNames='Mon;Tue;Wed;Thu;Fri;Sat;Sun';
18 SET LongDayNames='Monday;Tuesday;Wednesday;Thursday;Friday;Saturday;Sunday';
19

```

4.7 データのロード

すべてのデータファイルが追加され、そのテーブルが関連付けられて、地域の設定が変更されています。アプリの構築を開始する前に、スクリプトをロードする必要があります。



次の手順を実行します。

1. **[データのロード]** をクリックします。
データがロードされている間、進捗状況 ウィンドウが表示されます。データのロードが完了したら、次に進むことができます。
2. **[閉じる]** をクリックします。

データモデルの表示

アプリの構築を開始する準備は完了していますが、開始する前に、データモデルに注目する必要があります。

次の手順を実行します。

1. ツールバーの  をクリックして、**[データモデル ビューア]** を選択します。
2. データモデル ビューアのツールバーで  をクリックし、テーブルを展開します。
3. ツールバーで **[保存]** をクリックして作業を保存します。

すべてのテーブルが接続され、データモデル ビューアには、次のコンテンツが含まれています。1 つまたは複数のテーブルを接続する項目は、キーと呼ばれています。

キー項目を使用してテーブルが接続されたデータモデル ビューア



これでデータの追加が終了しました。アプリの構築を開始できます。

5 アプリの設計

データをロードしたら、シートとビジュアライゼーションを作成します。ダッシュボードを設計するには、正しいオブジェクトを正しい方法で使用し、使いやすいよう工夫してシートを構成しなければなりません。

このアプリは非常にシンプルですが、覚えておくと便利な設計原理がいくつかあります。

独自のアプリを構築するうえで、何らかのインスピレーションが必要になったら、Qlik のウェブサイト www.qlik.com を参照してください。さまざまな目的に合わせて開発された多数のアプリを閲覧できます。独自のアプリ設計に役立つテンプレートも入手できます。

5.1 シートの作成

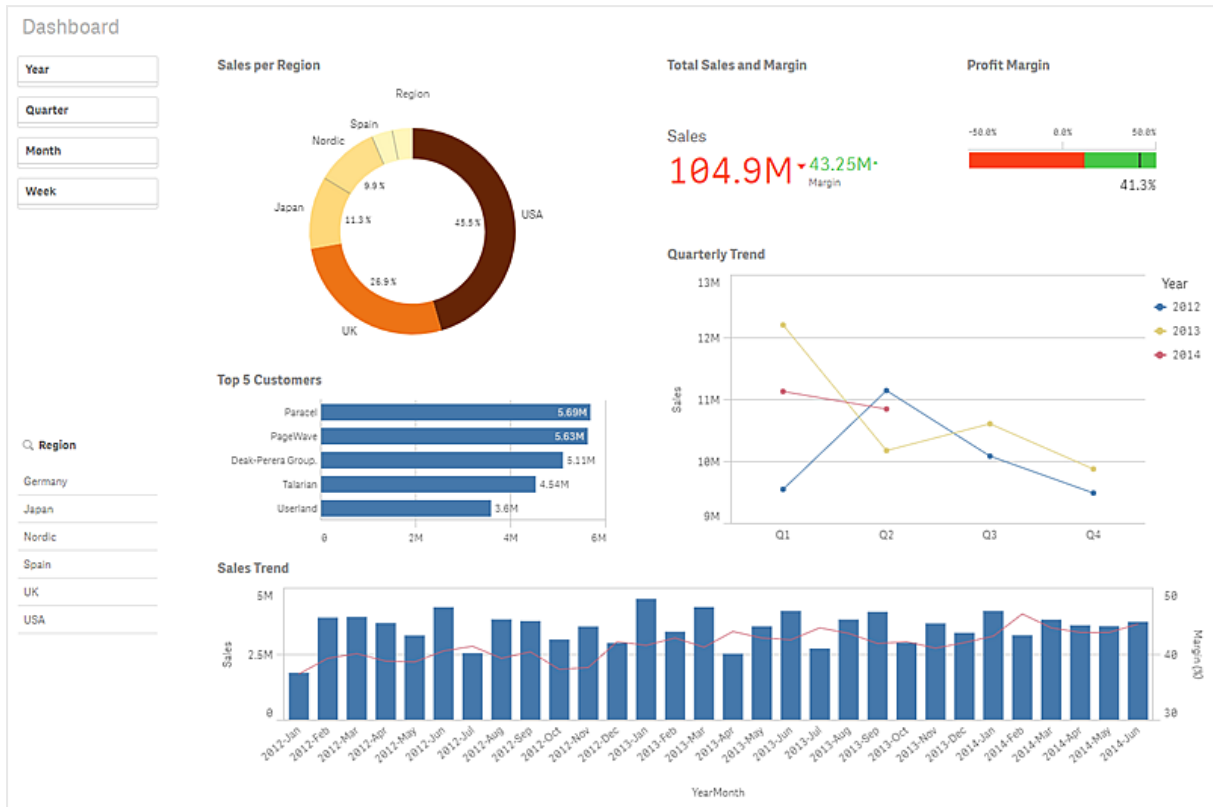
アプリの構築には、まず *Dashboard*、*Product Details*、*Customer Details*、*Customer Location* という4枚のシートが必要です。

次の手順を実行します。

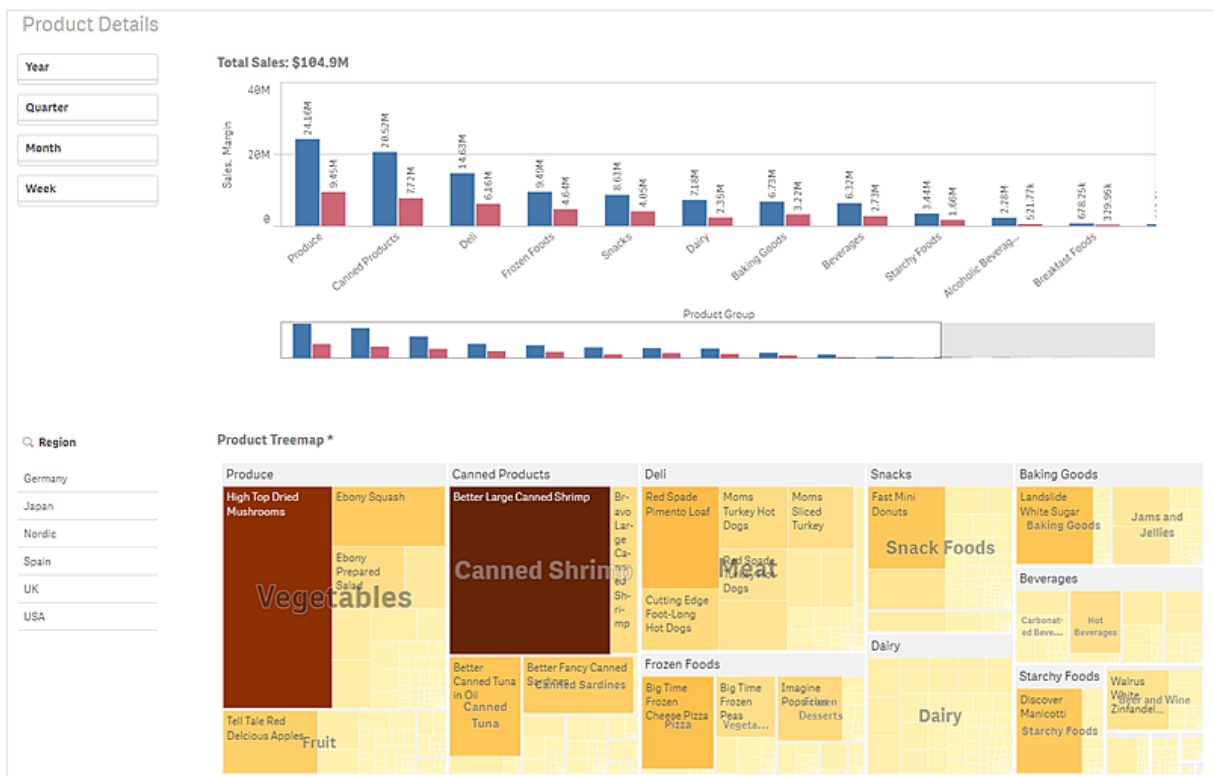
1. アプリ概要を開き、**[新しいシートを作成]** をクリックして、シートに *Dashboard* という名前を付けます。
 2. さらに3つのシートを作成し、*Product Details*、*Customer Details*、*Customer Location* と名前を付けます。
- これで同じ *Tutorial* アプリに属する4枚のシートができました。

このチュートリアルを完了すると、次のスクリーンショットのようにアプリが表示されます。

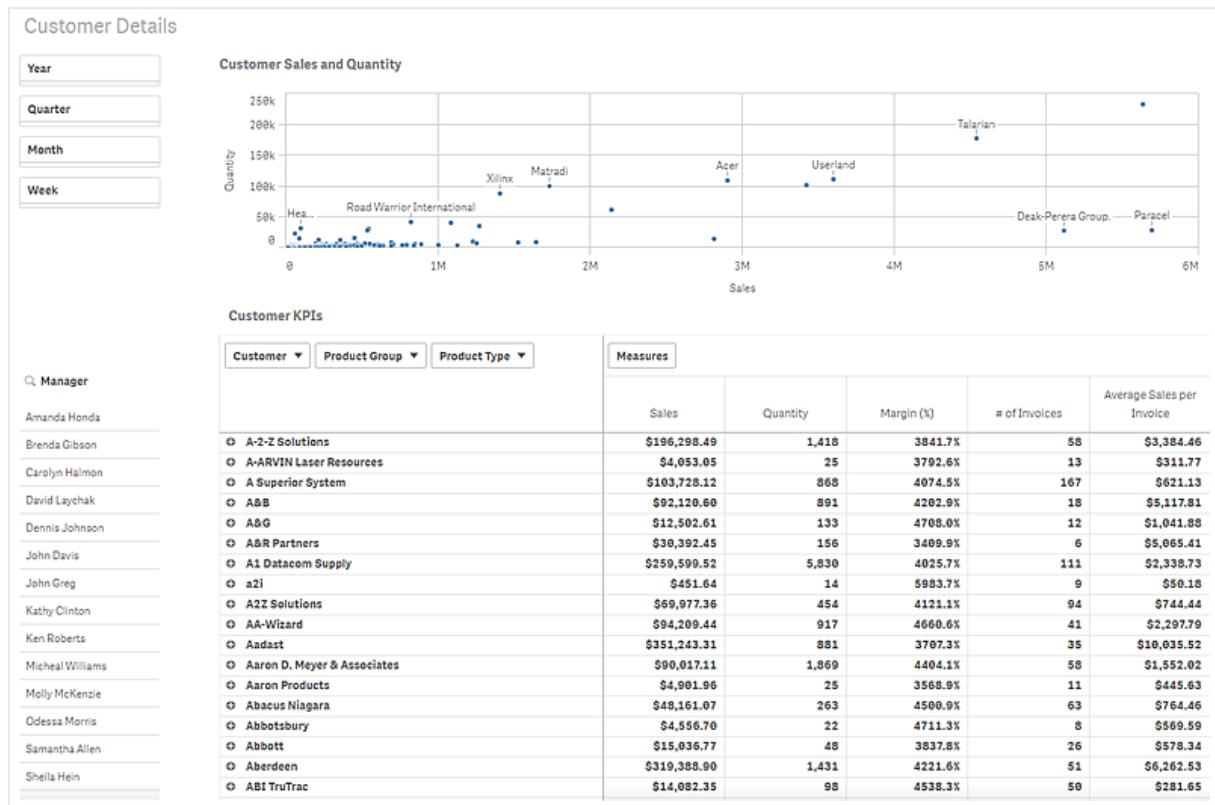
さまざまなビジュアライゼーションが含まれる *Dashboard* シート。



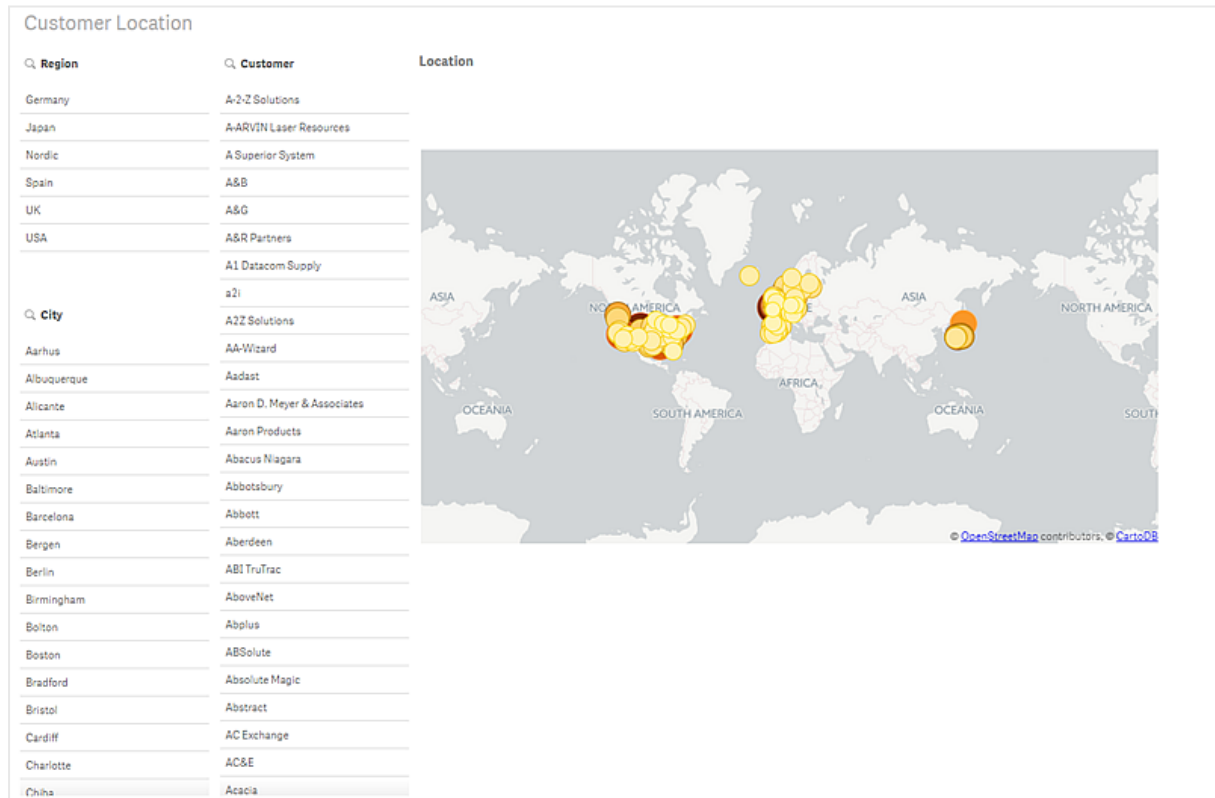
さまざまなビジュアライゼーションが含まれる *Product Details* シート。



さまざまなビジュアライゼーションが含まれる *Customer Details* シート。



さまざまなビジュアライゼーションが含まれる *Customer Location* シート。



マネージャーダッシュボード

ご覧のように、シートの構成には類似した点があり、すべてのシートにはフィルターパネルが含まれており、左側に配置されています。このように、アプリの設計には一貫性が必要です。

複数のシートに表示されるビジュアライゼーションは、見やすさを考慮して同じ位置に配置する必要があります。つまり、ユーザーの目標達成 (データディスカバリ) をサポートするための論理的設計が必要です。設計で重要なのは、配置とビジュアライゼーションの選択です。

適切に機能するアプリを効率的に構築するには、各ビジュアライゼーションが持つ独自のメリットを把握する必要があります。ビジュアライゼーションは、見ればある程度理解できるものであり、

概要や傾向を伝えるにはグラフィック要素が最適であり、限られたスペースに大量の情報を効率的に示すには、テーブルが適しています。この場合、正確な数字は提示できますが、グラフィック表示のメリットである瞬時のわかりやすさは失われます。

6 最初のシート: Dashboard

[Dashboard] を右クリックし、[開いて編集する] を選択して最初のシートを開きます。表示された空のシートを編集していきます。左側のアセットパネルには、使用可能なチャートと項目が含まれます。[] ([チャート]) をクリックすると、シートへのチャートの追加を開始できます。プロパティパネルは右側にあります。

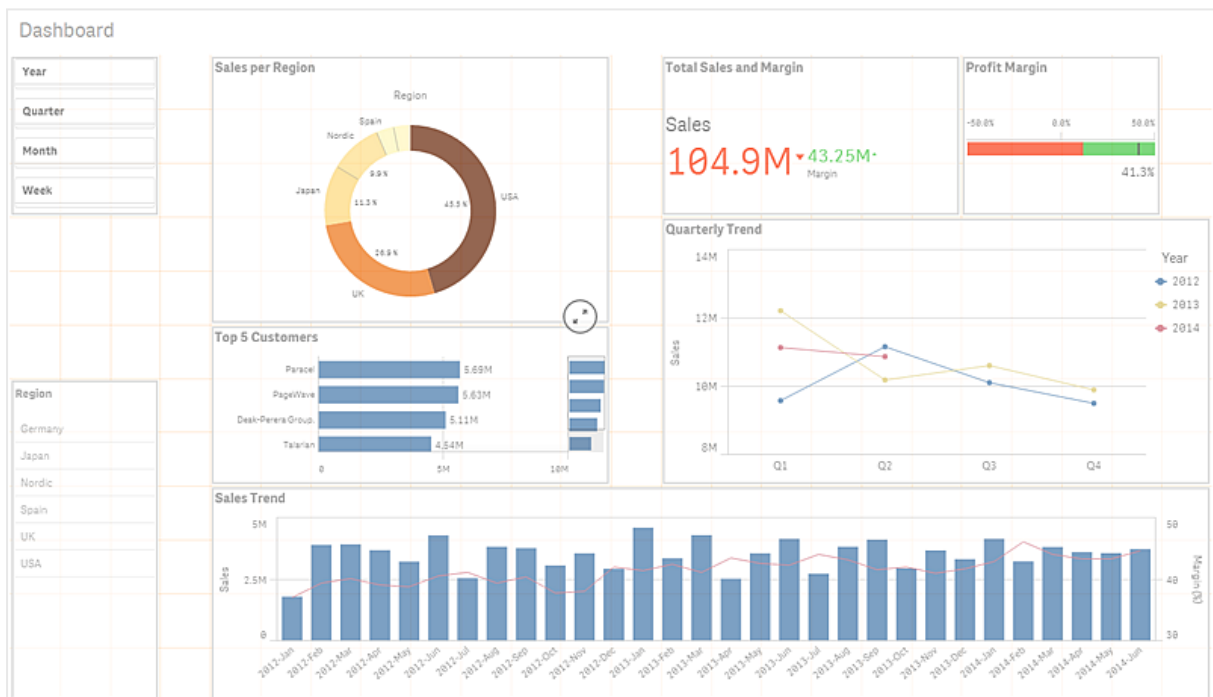
6.1 ビジュアライゼーションの作成

ダッシュボードには現在の状況の概要がまとめられており、販売傾向と数字に焦点を当てています。ダッシュボードはデータ探索を意図したものではありませんが、データを選択して結果を分析することはできます。

下の **Dashboard** のスクリーンショットには、編集中のシートが表示されています。チャートを配置したいエリアの中央にドラッグします。

左側には 2 つのフィルターパネル、つまり名前のない時間のフィルターパネルと **Region** のフィルターパネルがあります。ここから始めます。






編集中の **Dashboard** シート



6.2 フィルターパネルの追加

このフィルターパネルは、限定的なデータセットをフィルターし、分析と探索を可能にすることを目的としています。


次の手順を実行します。

1. シートにフィルター パネルをドラッグします。
2. 左側にあるアセット パネルのをクリックし、[項目]を開きます。
3. リストの [Date] をクリックして展開します。
4. **Year** 項目をフィルター パネルの中央にドラッグしてから、右側のプロパティ パネルのをクリックして軸を展開し、その [タイトル] を **Year** に変更します。
5. **Quarter** 項目をフィルター パネルにドラッグしてから、右側のプロパティ パネルのをクリックして軸を展開し、その [タイトル] を **Quarter** に変更します。
6. **Month** 項目をフィルター パネルにドラッグしてから、右側のプロパティ パネルのをクリックして軸を展開し、その [タイトル] を **Month** に変更します。
7. **Week** 項目をフィルター パネルにドラッグしてから、右側のプロパティ パネルのをクリックして軸を展開し、その [タイトル] を **Week** に変更します。
8. スクリーンショットを参考に、ハンドルを使ってフィルター パネルのサイズを変更します。
編集集中の *Dashboard* シート (page 22)
9. フィルター パネルを右クリックして、[マスター アイテムに追加] を選択します。
10. 名前に「**Period**」と入力し、[追加] をクリックします。

これでフィルター パネルが作成され、再利用可能なマスター アイテムとして保存されました。

2 つ目のフィルター パネルには、**Region** という軸が 1 つだけ含まれています。

次の手順を実行します。



1. 左側のアセット パネルで、をクリックして [チャート] を開き、フィルター パネルをシートにドラッグします。
2. [軸を追加] をクリックし、リストをスクロールダウンして **Region** 項目を見つけます。
3. スクリーンショットを参考に、ハンドルを使ってフィルター パネルのサイズを変更します。
編集集中の *Dashboard* シート (page 22)
4. フィルター パネルを右クリックして、[マスター アイテムに追加] を選択します。
5. 名前に「**Region**」と入力し、[追加] をクリックします。

これで 2 つのフィルター パネルが完成しました。

6.3 円グラフの追加

次に、円グラフを追加します。

次の手順を実行します。

1. 左側のアセット パネルで、をクリックして [チャート] を開き、円グラフをシートにドラッグします。
2. [軸を追加] をクリックし、**Region** 項目を追加します。
3. 左側にあるアセット パネルのをクリックし、[項目]を開きます。

4. [Sales] 項目を右クリックして、[メジャーの作成] を選択します。
5. [メジャーの新規作成] ダイアログの [数式] ボックスで、**Sum** を (Sales) の前に追加し、メジャー **Sum (Sales)** を作成します。
6. [追加] をクリックします。
メジャーがマスター アイテムとして保存されます。
7. 新しいメジャー **Sales** を円グラフの中央にドラッグします。
8. 右側のプロパティパネルで [スタイル] > [プレゼンテーション] の順にクリックし、[ドーナツ] を選択します。
9. プロパティパネルで [色と凡例] をクリックします。
10. [色] を [カスタム] に設定し、リストから [メジャー別] を選択します。
11. ビジュアライゼーションの最上部で「**Sales per Region**」というタイトルを追加します。
12. スクリーンショットを参考に、ハンドルを使って円グラフのサイズを変更します。
編集集中の *Dashboard* シート (page 22)


これでドーナツ型の円グラフが完成しました。円グラフの色はメジャーごとに異なり、値が高いほど濃くなっています。

値の色分けにはさまざまなオプションがあります。設定する際には、色分けはデータを見やすくするためのもので、ビジュアライゼーションをカラフルにするためのものではないということを忘れないでください。

6.4 棒グラフの追加

次に上位 5 社の顧客を示した棒グラフを作成します。

次の手順を実行します。

1. 左側にあるアセットパネルの  をクリックし、[チャート] を開きます。
2. シートに棒グラフをドラッグします。円グラフの下に配置します。
3. [軸を追加] をクリックし、リストをスクロールダウンして **Customer** 項目を見つけます。
4. [メジャーを追加] をクリックして、[メジャー] セクションから **Sales** を選択します。
5. 右側のプロパティパネルで、[外観] > [プレゼンテーション] の順に移動し、[水平] を選択します。
これで棒が水平に表示されます。
6. プロパティパネルの [データ] > [Customer] の順に選択して、軸を開きます。
7. [制限事項] リストで [固定数] を選択します。
8. デフォルト設定では、上位 10 社が表示されます。数字を 5 に変更して、
9. [その他の表示] の選択を外します。
10. プロパティパネルで、[スタイル] > [プレゼンテーション] の順にクリックし、[値ラベル] を [自動] に設定します。
11. プロパティパネルで、[外観] > [Y 軸: Customer] の順にクリックします。
12. [ラベルとタイトル] で [ラベルのみ] を選択します。
13. [X 軸: Sales] をクリックします。
14. [ラベルとタイトル] で [ラベルのみ] を選択します。
15. ビジュアライゼーションの最上部で「**Top 5 Customers**」というタイトルを追加します。

16. スクリーンショットを参考に、棒グラフのサイズを変更します。

編集中の *Dashboard* シート (page 22)




これで棒グラフの完成です。上位 5 社の顧客を示した棒グラフが作成されました。他のビジュアライゼーションで選択を行うと、上位 5 社は自動的に変更されます。

[その他の表示] の選択を外さなかった場合は、5 つ目の棒がグレーになり、会社名が指定されていないすべての値を合計したものが表示されます。これは、購入先が特定されていない売上がどの程度あるのかを理解するのに役立ちます。

6.5 コンボ チャートの追加

コンボ チャートは棒グラフと折れ線グラフを組み合わせたもので、通常であれば結合が困難な目盛の異なる値を 1 つにまとめた場合に便利です。

次の手順を実行します。

1. 左側にあるアセットパネルの  をクリックし、[チャート] を開きます。
2. シートにコンボ チャートをドラッグします。棒グラフの下に配置します。
3. 左側にあるアセットパネルの  をクリックし、[項目] を開きます。
4. [Date] をクリックします。
5. *YearMonth* 項目をコンボ チャートにドラッグし、上にある [追加] をクリックします。
6. [メジャーを追加] をクリックして、[メジャー] セクションから [Sales] を選択します。
7. 左側にあるアセットパネルの  をクリックし、[マスター アイテム] を開きます。
8. [メジャー] の下にある [新規作成] をクリックします。
9. 次の文字列をコピーして [数式] ボックスに貼り付けます。
$$(Sum(Sales) - Sum(Cost)) / Sum(Sales)$$
10. 名前に「*Margin Percent*」と入力し、[作成] をクリックします。
これで新しいメジャーがマスター アイテムのメジャーのリストに追加されました。
11. *Margin Percent* メジャーをコンボ チャートにドラッグします。
12. [Margin Percent を追加] > [線] を順に選択します。
13. ビジュアライゼーションの最上部で「*Sales Trend*」というタイトルを追加します。
14. スクリーンショットを参考に、コンボ チャートのサイズを変更します。

編集中の *Dashboard* シート (page 22)



これでコンボ チャートの完成です。*Sales* と *Margin Percent* の 2 つのメジャーを個別の軸として表すことで、2 つの異なる目盛が 1 つのチャートにまとめられています。

左側の主軸は *Sales* に、第 2 軸は *Margin Percent* に使用されています。

6.6 KPI の追加

KPI ビジュアライゼーションは 1 つまたは 2 つのメジャー値を表示し、業績の追跡に使用されます。色分けとグリフは、その数字と期待された結果との関係を示します。

次の手順を実行します。

1. 左側にあるアセットパネルの  をクリックし、[チャート] を開きます。
2. シートに KPI チャートをドラッグします。円グラフの右側に配置します。
3. [メジャーを追加] をクリックして、[メジャー] セクションから **Sales** を選択します。
売上総額が KPI に追加されます。
4. 右側のプロパティパネルで、[スタイル] > [色] の順に選択し、[条件付きの色] を [オン] に設定し、[限度の追加] をクリックします。
5. [値] バーの左側をクリックし、ダイアログボックスで [色] を赤、[シンボル▼] としてを選択します。
6. [値] バーの右側をクリックし、ダイアログボックスで [色] を緑、[シンボル▲] としてを選択します。
7. 値の限度を右側にドラッグして、売上高を赤で KPI に表示します。
8. 左側にあるアセットパネルの  をクリックし、[マスターアイテム] を開きます。
9. [メジャー] を選択します。
10. [新規作成] をクリックして、[数式] ボックスに「*Sum(Margin)*」と入力します。
11. 名前に「*Margin*」と入力し、[作成] をクリックします。
メジャーのマスターアイテムに *Margin* が追加されました。
12. プロパティパネルで、[データ] > [メジャー] の順に選択し、[追加] をクリックして [Margin] を選択します。
利益総額が KPI に追加されます。
13. 右側のプロパティパネルで、[スタイル] > [色] の順に選択し、[2 番目] をクリックします。
14. [売上] に対して取得した [利益] の限度を設定します。ただし、今度は値の限度を左側にドラッグして、売上高を緑で KPI に表示します。
15. プロパティパネルで [スタイル] > [プレゼンテーション] の順にクリックし、[配置] ドロップダウンから [左] を選択します。
16. プロパティパネルで [スタイル] > [プレゼンテーション] の順にクリックし、[タイトルの表示] を [オン] に設定します。
17. [タイトル] テキストボックスに次のように入力します。
総売上高および利益
18. スクリーンショットを参考に、KPI オブジェクトのサイズを変更します。
編集中の *Dashboard* シート (page 22)

Qlik Sense Desktop を使用している場合は、[保存] をクリックします。


KPI の作成が完了し、総売上高が予想以下であるが、利益は十分出ていることがわかります。

値が分かりやすいように、さまざまな色と記号を使用することができます。赤は懸念範囲を、緑は優良な範囲を示しています。

6.7 ゲージの追加

ゲージは単一のメジャーを可視化するために使用されます。テキストと画像チャートと同様、ゲージ内では選択は行いません。

次の手順を実行します。

1. 左側にあるアセットパネルの  をクリックし、[チャート] を開きます。
2. ゲージチャートをシートにドラッグして、KPI ビジュアライゼーションの右側に配置します。
3. [メジャーを追加] をクリックします。
4. メジャー *Margin Percent* を選択します。
5. 右側のプロパティパネルで、[データ] > [メジャー] > [利ざや] > [数値書式] の順に移動して、[数値] を選択し、表示される [書式] リストで [12%] を選択します。
6. [スタイル] > [プレゼンテーション] の順にクリックし、[棒] を選択するとゲージが棒で示されます。
7. [方向] を [カスタム] に設定して、[水平] を選択します。
8. [範囲限度] で [最小] を -0.5、[最大] を 0.5 に設定します。
9. [プレゼンテーション] で [セグメントの使用] を選択します。
10. [限度の追加] をクリックします。
11. 表示されたテキストボックスで 0.12 と入力します。これにより左側と右側のセグメントの限度が 12% に設定されます。
12. Enter を押します。
13. 左側のセグメントをクリックして赤を選択します。
14. 右側のセグメントをクリックして緑を選択します。
15. プロパティパネルの最下部で [メジャー軸] を開きます。
16. [ラベルとタイトル] で [ラベルのみ] を選択します。
17. ビジュアライゼーションの最上部で「Profit Margin」というタイトルを追加します。
18. スクリーンショットを参考に、ゲージのサイズを変更します。
編集中の Dashboard シート (page 22)




ゲージが完成し、利幅が表示されます。


値が分かりやすいように、ゲージは色分けされています。赤は懸念範囲を、緑は優良な範囲を示しています。

6.8 折れ線グラフの追加

ここでは、2012～2014年の四半期ごとの販売動向を示すために折れ線グラフを使用します。2014年の数字は第2四半期までのものです。

次の手順を実行します。

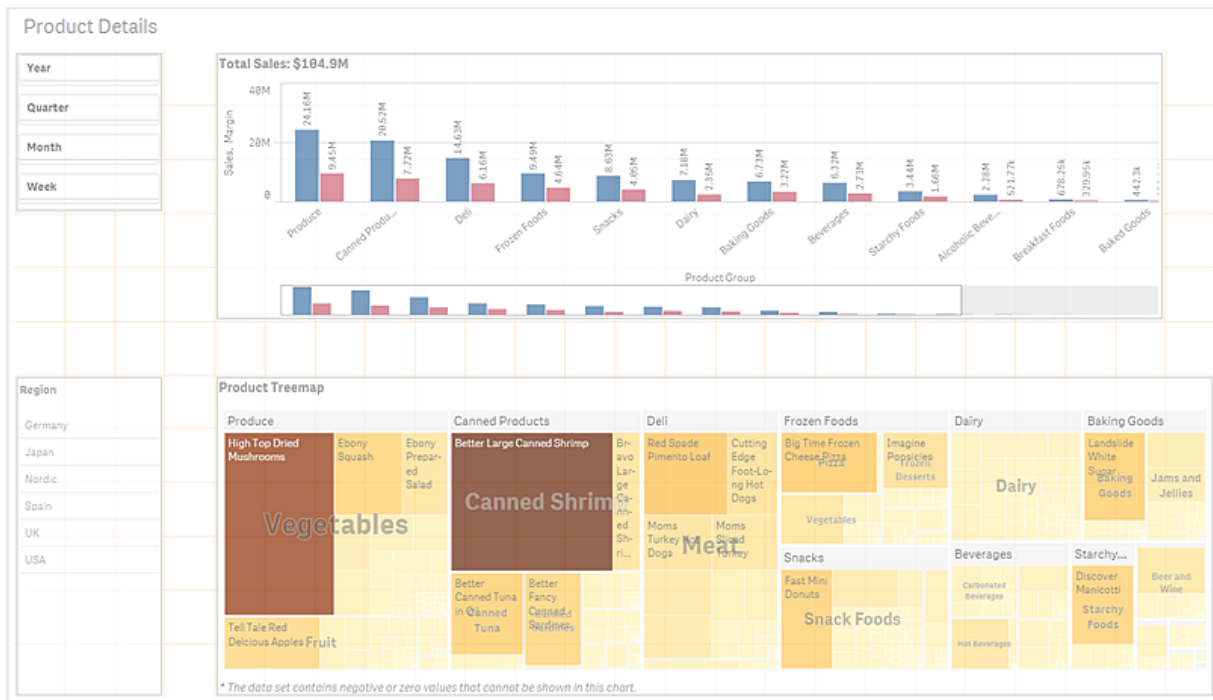
1. 左側にあるアセットパネルの  をクリックし、[チャート] を開きます。
2. シートに折れ線グラフをドラッグします。
3. 左側にあるアセットパネルの  をクリックし、[項目] を開きます。
4. [Date] をクリックします。
5. Quarter 項目を折れ線グラフにドラッグし、上にある [追加] をクリックします。
6. 右側のプロパティパネルの  をクリックして軸 *Date.Quarter* を展開し、その [ラベル] を *Quarter* に変更します。

7. [メジャーを追加] をクリックし、[メジャー] リストから [Sales] を選択します。
 8. 左側にあるアセットパネルの  をクリックし、[項目] を開きます。
 9. [Date] をクリックします。
 10. Year項目を折れ線グラフにドラッグし、上にある[追加] をクリックします。
 11. 右側のプロパティパネルの ▶ をクリックして軸 *Date.Year* を展開し、その [ラベル] を *Year* に変更します。
 12. プロパティパネルで [スタイル] > [プレゼンテーション] の順にクリックし、[データポイントを表示します] チェックボックスをオンにします。
 13. ビジュアライゼーションの最上部で「Quarterly Trend」というタイトルを追加します。
- これで最初のシートが完成しました。右上の ➤ をクリックして、*Product Details* シートに移動します。

7 2 番目のシート: Product Details

このシートは製品に焦点を当てています。

編集時の *Product Details* シート



7.1 フィルターパネルの追加

マスターアイテムとして保存した *Period* フィルターパネルと *Region* フィルターパネルを再利用します。



次の手順を実行します。

1. アセットパネルで をクリックして [マスターアイテム] を開きます。
2. [ビジュアライゼーション] をクリックします。
3. *Period* フィルターパネルをシートにドラッグし、スクリーンショットを参考にサイズを変更します。
2 番目のシート: *Product Details* (page 29) を参照してください。
4. 同様に、*Region* フィルターパネルを *Period* の下にドラッグしてサイズを変更します。

7.2 棒グラフの追加

次に売上の上位を示した棒グラフを作成します。

次の手順を実行します。

1. 左側にあるアセットパネルの  をクリックし、[チャート] を開きます。
2. 棒グラフをシートにドラッグして、*Period* フィルター パネルの右側に配置します。
3. [軸を追加] をクリックし、*Product Group* 項目を選択します。
4. [メジャーを追加] をクリックし、[メジャー] リストから [Sales] を選択します。
5. 左側にあるアセットパネルの  をクリックし、[マスターアイテム] を開きます。
6. [メジャー] を選択します。
7. メジャー *Margin* を棒グラフにドラッグし、上にある [追加] を選択します。
8. プロパティパネルで、[スタイル] > [プレゼンテーション] の順にクリックし、[値ラベル] で [自動] を選択します。
9. スクリーンショットを参考に、棒グラフのサイズを変更します。
2 番目のシート: *Product Details* (page 29) を参照してください。
10. 次の文字列をコピーして、棒グラフのタイトルに貼り付けます。
='Total Sales: \$' & Round(Sum(Sales)/1000000, 0.1) & 'M'

これで棒グラフの完成です。デフォルトで、2 つ目のメジャーを棒グラフに追加すると、メジャーはグループ化されます。

7.3 ツリーマップ°チャートの追加

ツリーマップは、階層データを表示するために使われます。このツリーマップでは、製品の階層を作成します。

次の手順を実行します。

1. 左側にあるアセットパネルの  をクリックし、[チャート] を開きます。
2. ツリーマップをシートの空白スペースにドラッグします。
3. [軸を追加] をクリックし、*Product Group* 項目を選択します。
4. [メジャーを追加] をクリックし、[メジャー] リストから [Sales] を選択します。
5. 右側のプロパティパネルで、[データ] > [軸] の順に移動し、[追加] をクリックします。
6. リストで *Product Type* を選択します。
7. [データ] > [軸] の順に移動し [追加] をクリックして、*Item Desc* を選択します。
8. [スタイル] > [色と凡例] の順に選択し、[色] を [自動] から [カスタム] に設定します。
9. リストから [メジャーごと] を選択します。
10. スクリーンショットを参考に、ツリーマップのサイズを変更します。
2 番目のシート: *Product Details* (page 29) を参照してください。
11. ビジュアライゼーションに *Product Treemap* というタイトルを追加します。

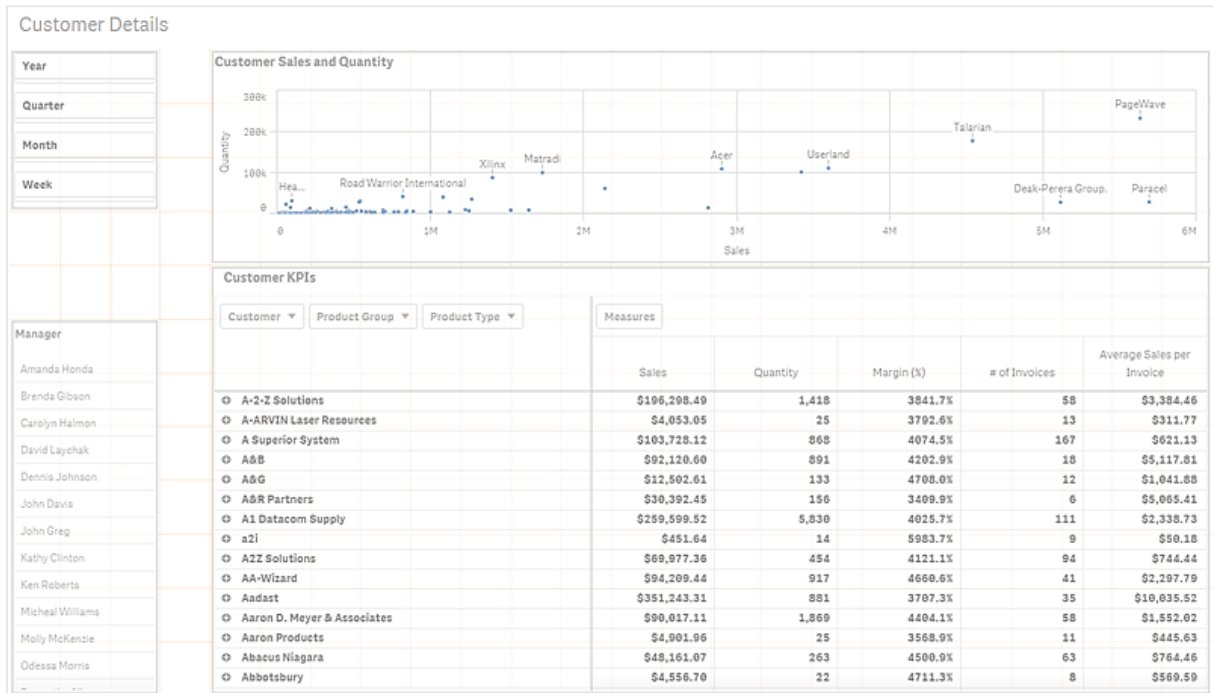
これでツリーマップとシートが完成しました。次は最後のシートです。右上の ➤ をクリックして、*Customer Details* シートに移動します。

8 3 番目のシート: Customer Details

このシートでは顧客に注目します。

軸、メジャー、ビジュアライゼーション作成の演習は十分に経験しているはずですので、詳細な手順は省きます。唯一の例外は、プロパティパネルで変更を行う場合です。これまで学習した内容を振り返る必要がある場合は、以前のトピックに戻って参照できます。

編集中の *Customer Details* シート



8.1 フィルター パネルの追加

次の手順を実行します。

1. フィルター パネル *Period* を追加します。
2. *Manager* 軸を持つ新しいフィルター パネルを追加します。

8.2 散布図の追加

散布図は、*Customer* 軸および *Sales* と *Quantity* のメジャーを使用します。まず、*Quantity* メジャーを作成して、マスター アイテムとして保存する必要があります。項目 *Sales Qty* と集計関数 *Sum* を使用します。項目 *Sales Qty* は 2 つの単語で構成されているため、数式内では *[Sales Qty]* のように角括弧で囲む必要があります。数式は次のようになります。 *Sum ([Sales Qty])*

プロパティパネルの *[スタイル]* で、Y 軸と X 軸の *[範囲]* を設定し、負の値を含まないようにします。

これで2つのメジャーが散布図に追加されたはずですが、散布図を使用すると、2~3つのメジャーの関係を可視化できます。この例では、**Sales**と**Quantity**のメジャーを比較しています。各バブルは**Customer**軸値を表しています。ビジュアライゼーションには**Customer Sales and Quantity**という名前が付けられています。

8.3 Customer KPIs テーブルの追加

Customer KPIsというテーブルでは、**Customer**という軸を使用しています。

プロパティパネルの[データ]から、テーブルに列を追加します。マスターアイテムとして使用できる**Sales**、**Quantity**、**Margin Percent**というメジャーを使用します。これをスクリーンショットと同じ順番で追加します。

最後の2列用に、残りのメジャーを作成する必要があります。

- メジャー **# of Invoices** には、次の数式を使用します。
Count (Distinct [Invoice Number])
- メジャー **Average Sales per Invoice** には、次の数式を使用します。
Sum(Sales)/Count(Distinct [Invoice Number])



2つの数式では、**Distinct** 修飾子を使用します。**Distinct** を使用することにより、請求書番号がデータソースで複数回出てくる場合でも1度だけカウントされるようにします。**Distinct** は一意の番号をソートします。**Distinct** と項目名の間にはスペースが挿入されている点に留意してください。

数値書式の調整

チャートの各メジャーの[数値書式]を構成するには、最初に[マスターメジャーの形式]を無効にする必要があります。

次の手順を実行します。

- プロパティパネルで[データ]をクリックします。
- Sales** をクリックして、[数値書式]を[通貨]に設定します。メジャーを閉じます。
- Quantity** をクリックして、[数値書式]を[数値]([1,000])に設定します。メジャーを閉じます。
- Margin Percent** をクリックして、[数値書式]を[数値]([12.3%])に設定します。メジャーを閉じます。
- Average Sales per Invoice** をクリックして、[数値書式]を[通貨]に設定します。メジャーを閉じます。

8.4 Customer KPIs テーブルのピボットテーブルへの変換

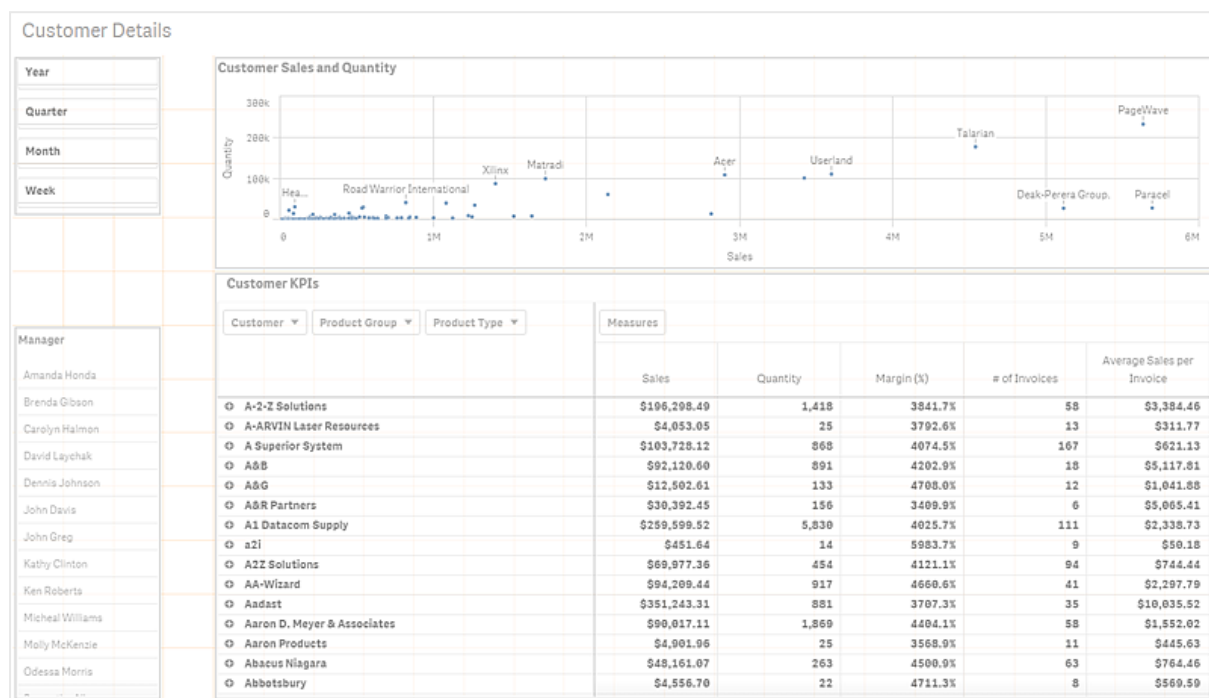
顧客 KPI テーブルをピボットテーブルに変換することにより、軸やメジャーをさらに取り込み、これらを再整理して、より柔軟かつ有用な方法でデータを分析できるようになります。

ピボットテーブルは、軸とメジャーをテーブル内で行と列として表示します。ピボットテーブルでは、複数のメジャーによって同時に複数の軸でデータを分析できます。メジャーと軸を並べ替えて、データのさまざまなビューを取得できます。行と列間で互いにメジャーと軸を移動する作業は「ピボット化」と呼ばれます。

8 3 番目のシート: Customer Details

ピボットテーブルの長所の1つは、その互換性です。つまり、行アイテムを列に、列アイテムを行に移動する機能です。この柔軟性は非常に強力で、データの並べ替えや同じデータセットのさまざまなビューの取得が可能になります。焦点を当てる内容に応じて、軸とメジャーを移動し、着目するデータは前面に表示し、詳しく見るまたは分析に関係のないデータは非表示にします。

変換後の *Customer Details* シート



テーブルの変換

次の手順を実行します。

1. アセット パネルで、 をクリックして [チャート] を開きます。
2. *Customer KPIs* テーブルの中央にピボットテーブルをドラッグし、[以下に変換: ピボットテーブル] を選択します。
3. 右側のプロパティパネルで [データ] > [データの追加] の順に選択し、[行] をクリックします。
4. リストで *Product Group* を選択します。
5. [データの追加] をもう一度選択して、*Product Type* 行を追加します
6. ビジュアライゼーションに「*Customer KPIs*」というタイトルを追加します。
7. ツールバーで[✓ 編集の完了] をクリックします。

これで、製品グループと製品タイプごとに個々の会社の売上を確認できるようになりました。[顧客]、[製品グループ]、または [製品タイプ] をクリックしたり、テーブル内の個別品目を選択することで、テーブルに表示される選択肢をフィルタリングできます。[製品グループ] または [製品タイプ] を [メジャー] に移動してフィルタリングすることで、表示するデータのさまざまなビューを実現できます。

8 3 番 目 の シ ー ト : Customer Details

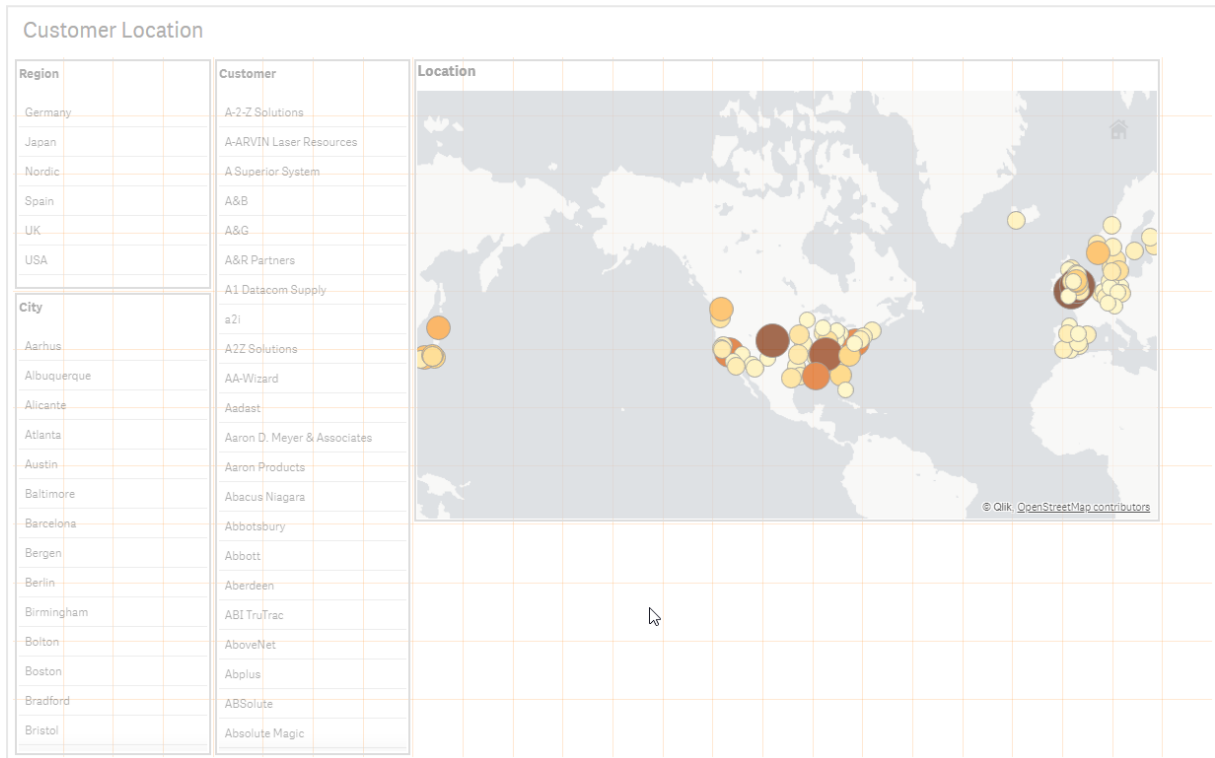
ピボットテーブルの使用方法についての詳細は、help.qlik.com にある Qlik Sense オンライン ヘルプ を参照してください。

9 4 番目のシート: 顧客の場所

このシートは、マップを使用して顧客の場所に焦点を当てています。

データを表示するポイントレイヤーまたはエリアレイヤーを追加してマップを作成できます。レイヤーデータのコンテキストを提供するベースマップを選択する必要があります。軸の値にメジャー値や数式を追加することが可能で、ポイントのサイズやメジャーごとの色分けを使用して、メジャーのサイズを反映させることができます。

編集中の *Customer Location* シート



9.1 フィルターパネルの追加

フィルターパネルを追加しましょう。

次の手順を実行します。




1. ツールバーで [シートの編集] をクリックします。
2. フィルターパネル **Region** を追加します。
3. 新しいフィルターパネルを2つ追加します。1つには **[City]** 軸があり、もう1つには **[顧客]** 軸があります。

9.2 マップの追加

Qlik Sense では、ポイントマップおよびエリアマップの2種類のマップを作成できます。Qlik Sense では、ポイントレイヤーおよびエリアレイヤーのデータを表示するマップを作成できます。このチュートリアルで使用するマップにはポイントレイヤーが含まれています。ポイントレイヤーは、都市などの関心のある場所をマークするためにポイント

座標 (経度と緯度) または場所名を使用して作成されます。

次の手順を実行します。

1. シートにマップ チャートをドラッグします。
2. プロパティパネルで、[ベース マップ] をクリックし、[淡い] を選択します。
3. アセットパネルで、 をクリックし、項目 [City] をマップにドラッグします。
4. [Add as new layer] (新しいレイヤーとして追加) を選択します。
5. [Add as point layer] (ポイントレイヤーとして追加) を選択します。
6. プロパティパネルの [Layers] (レイヤー) で、[City] ポイントレイヤーをクリックします。
7. [場所] 項目の後ろの [場所] で、項目 [Longitude_Latitude] を選択します。
8. アセットパネルで、 マスター アイテム] をクリックします。
9. [メジャー] で [売上] を見つけて、マップにドラッグします。
10. [Use in "City" (Point layer)] ("都市" (ポイントレイヤー) で使用) を選択し、[Size by: Sales] (サイズ: 売上) を選択します。
11. プロパティパネルの [Size & Shape] (サイズと形状) で、[Bubble size range] (バブル サイズ範囲) スライダーを調整します。最小値が小さすぎると、売上高が大きな場所と比較したときに、ある場所の売上を表示するバブルが表示されない場合があります。
12. [色] で、[色] を [自動] から [カスタム] に設定します。
13. リストで [メジャーごと] を選択し、[メジャーの選択] で [売上] を選択します。
14. ビジュアライゼーションに「Location」というタイトルを追加します。
15. ツールバーで[ 編集の完了] をクリックします。

マップサイズは、フィルターで行われた選択によって調整されます。たとえば、Nordic を選択するとマップが北ヨーロッパエリアにズームインされ、そのエリアの売上場所が表示されます。

マップの特定のエリアは、マウスを使用して表示する周囲の囲みを描画する際に Shift キーを押しながら選択できます。これにより、フィルターパネルでの選択がマップで行う選択に反映されるようになります。

マップ上で特定の場所を選択すると、フィルターパネルのその場所に顧客が表示されます。他のシートで選択した場合も、[顧客の場所] シートに表示されるデータに影響を与えます。

以上でアプリの構築チュートリアルを修了しました。これで Qlik Sense アプリを構築できました!

これでアプリにデータストーリーテリングを追加できます。

10 データストーリーテリング

データストーリーテリングにより、アプリ内のデータに基づいてプレゼンテーションを作成できます。選択したビジュアライゼーションのスナップショットを取得し、テキストや図形、効果とともに説明で使


用します。

特定の対象者を念頭において、スライドを作成し、ストーリーを設計します。説明では重要な要素に焦点を当て、メッセージを明確に伝えられる説得力のあるストーリーを作成してください。

データストーリーテリングのもう1つの便利な機能は、プレゼンテーション内のスナップショットとアプリ内のそのコンテキストを容易に切り替えることができることです。アプリのコンテキストでは、新しい選択を行い、プレゼンテーション内の中断した位置から分析を続行できます。

分析が終わったら、プレゼンテーションを再開できます。

10.1 スナップショットの取得

アプリでスナップショットを取得してストーリーの作成を開始します。右上のを使用してシート **Dashboard** に移動します。

プレゼンテーションでは、3つの重要な地域に焦点を当て売上の傾向を分析します。

次の手順を実行します。

1. ビジュアライゼーション **Sales per Region** を右クリックし、**[スナップショットを取得]** を選択します。
2. **Region** で **Nordic** を選択します。
3. ビジュアライゼーション **Top 5 Customers** を右クリックし、**[スナップショットを取得]** を選択します。
4. 注釈ダイアログの中で開きます。
 - a. テキスト項目に「Nordic」と入力します。
 - b. 注釈ダイアログの外側をクリックして閉じます。
5. ビジュアライゼーション **Quarterly Trend** を右クリックし、**[スナップショットを取得]** を選択します。
6. 注釈ダイアログの中で開きます。
 - a. テキスト項目に「Nordic」と入力します。
 - b. 注釈ダイアログの外側をクリックして閉じます。
7. **Region** で **Nordic** の選択を解除し、**USA** を選択します。
8. **Nordic (Top 5 Customers および Quarterly Trend)** と同じビジュアライゼーションのからスナップショットを取得し、「USA」という注釈を付けます。
9. **Region** で **USA** の選択を解除し、**Japan** を選択します。
10. **Nordic (Top 5 Customers および Quarterly Trend)** と同じビジュアライゼーションのからスナップショットを取得し、「Japan」という注釈を付けます。

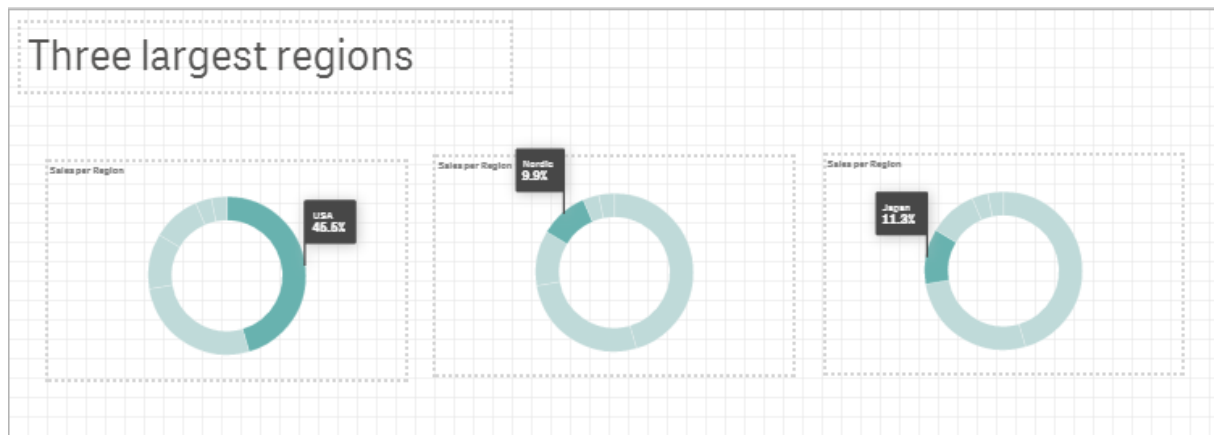
必要なスナップショットをすべて取得したので、これでデータストーリーテリング スライド作成を開始できます。

10.2 シンプルなストーリーの作成

スナップショットとタイトルを含む数枚のスライドを作成することに焦点を当て、短くシンプルなストーリーを作成します。詳細な手順を紹介する前にスライドのスクリーンショットを示します。

スライド1

タイトルが「*Three largest regions*」のスライドと、円グラフの3つのスナップショット。



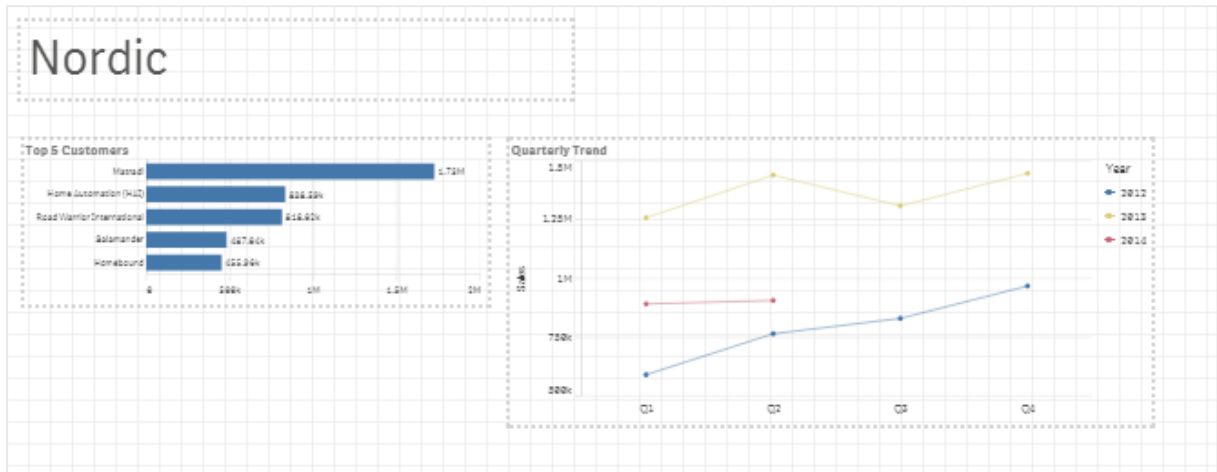
次の手順を実行します。

1. ツールバーで をクリックしてから [ストーリーの新規作成] をクリックします。
2. *Three largest regions* というタイトルを入力します。
ストーリー *Three largest regions* をクリックします。
データストーリーテリング エディタが開きます。
3. **A** をクリックし、タイトルをスライドにドラッグします。
4. *Three largest regions* というタイトルを入力します。
5. をクリックして、以前に取得したスナップショットを表示します。
6. 円グラフ *Sales per Region* のスナップショットをスライドにドラッグします。
7. 円グラフのサイズを変更して、スライドの一番左に配置します。
8. をクリックして、[効果ライブラリ] を開きます。
9. オプションの [任意の値] を円グラフにドラッグします。
値 *USA* が自動的にハイライトされます。
10. 円グラフをコピーして、最初の円グラフの隣に貼り付けます。この操作は、Ctrl+C と Ctrl+V のキー操作 および下部にあるツールバーの でも実行できます。
11. 新しい円グラフで をクリックし、*Nordic* を [データポイントを選択] リストから選択します。
12. 2番目の円グラフを同じ方法で3番目の円グラフを作成し、*Japan* をハイライトします。
13. [保存] をクリックします (Qlik Sense Desktop を使用している場合のみ)。

スライドが完成しました。

スライド2～4

タイトルが「Nordic」のスライドと、棒グラフ1つと折れ線グラフ1つの2つのスナップショット。



スライド2～4は、3つの地域の上位5名の顧客と、四半期ごとの販売動向を示しています。スナップショットは取得した順番にライブラリに保存され、最新のものが一番上に表示されます。スナップショットを取得する手順に従うと、一番上にある2つがJapan、その下の2つがUSA、残り2つがNordicになります。

次の手順を実行します。

1. 左下の \oplus をクリックして空のスライドを追加します。
2. をクリックして、スナップショットを表示します。
3. **Nordic**の **Top 5 Customers** 棒グラフをスライドにドラッグします。
4. **Nordic**の **Quarterly Trend** 線グラフをスライドにドラッグします。
5. **A** をクリックし、タイトルをスライドにドラッグします。
6. **Nordic** というタイトルを入力します。
7. スクリーンショットに合わせて、タイトルとスナップショットのサイズと配置を調整します。
8. 左側のストーリータイムラインにあるシート **Nordic** を右クリックし、**[複製]** を選択して、次のシートのテンプレートとして使用できる新たなシートを作成します。
9. タイトルを **USA** に変更します。
10. **[上位5社の顧客]** スナップショットを選択し、 をクリックして、**[スナップショットの置換]** ダイアログを開き、リストの2番目のスナップショットを選択します。ここまでの手順に従っていれば、スナップショットには **USA** という注釈が付いているはずです。



そのスナップショットのバージョンの選択肢を確認する場合は、スナップショットを右クリックして、**[ソースの表示]** をクリックします。次に、**[戻る]** をクリックして、ストーリーに戻ります。

11. **[四半期ごとの動向]** スナップショットを、上記で実行した場合と同様に、**[上位5社の顧客]** スナップショットに置き換えます。


12. **USA** シートを複製し、**Japan** を表示するように調整します。ここで、**[スナップショットの置換]** のリストの最上位にあるスナップショットを使用します。ここまでの手順に従っていれば、スナップショットには **Japan** という注釈が付いているはずです。

これらのスライドを分析する際は、**2014** 年の数値が半年の数値である点を把握することが重要です。1 年間の数値で外挿すると、別の地域の異なる予測になります。

ストーリーが完成しました。左上の▶ をクリックしてプレゼンテーションを再生します。左右の矢印キーを使用すると、スライド内を移動できます。

ストーリーを閉じて、必要に応じて編集します。スライドの下には、プレゼンテーションを編集する際に便利な、切り取りやコピー、貼り付けのツールがあります。もちろん、右側のパネルを使用することもできます。

データストーリーテリングとアプリのコンテキストの切り替え

データストーリーテリングでは、いつでもプレゼンテーションとアプリのコンテキストを切り替えられます。スナップショットを右クリックして**[ソースの表示]** を選択し、スナップショットを取得したアプリのシートを開きます。この機能は、プレゼンテーションを中断してデータの分析を行い、オーディエンスからの質問に答えるというダイナミックなオプションを提供します。分析を終了したら、ツールバーで をクリックしてプレゼンテーションに戻ります。

[ソースの表示] オプションは、適切な棒グラフや折れ線グラフが使用されていることを確認するという目的においても有用です。**[ソースの表示]** を選択すると、どの地域が特定のスナップショットで選択されているのか確認できます。

その他のオプション

このストーリーで使用されていないオプションは数多くあります。自分でいろいろと試してみてください。試しに効果を棒グラフに追加してみましょう。新しいスライドを追加して、完成しているアプリシートを埋め込みます。ここで再生モードの際に選択を行うことができます。**URL** またはブックマークをテキスト文字列に追加します。このほかにも多彩なオプションがあります。

10.3 お疲れ様でした！

このチュートリアルはこれで終了です。いくつかの操作を習得し、アプリ作成は思ったより簡単で楽しいことがお分かりいただけたでしょう。ここで説明された機能はほんの一部で、**Qlik Sense** はさらに多くの機能を備えた強力なツールです。このチュートリアルは、開始点に過ぎません。